©河北新報社 2009

NIE特集
Newspaper In Education

横山小

学校名　登米市立横山小学校
所在地　登米市津山町横山本町91
電　話　0225（69）2210
校　長　浅野　盛夫
児　童　77人

横山不動尊の歴史を探れ!

火事から御本尊守る

住民7人で運び出す

知り隊

わたしたち横山小の近くには日本三不動の一つ、「横山不動尊」があり、地域の人々からは「お不動さん」と呼ばれ昔から親しまれています。境内には本堂や五重塔など多数のお参りするところや、天然記念物となっているウグイの生息池があり、たくさんの観光客が訪れています。わたしたちは、住職の橘智法さんにお不動さんの歴史や出来事についてお話を伺いました。

横山不動尊の本堂前で取材する子どもたち

横山不動尊は山のふもとにあり、そこは町の入り口に当たる場所です。「お不動尊ができたのは、今から約850年前の平安時代の終わりごろ」と橘さんが説明してくれました。本堂に入り、仏像の「木造不動明王御本尊」を見せてもらいました。怖い顔をしています。もともとは寺の後ろにある白鳥山の頂上に祭ってありましたが、400年ほど経ってから現在の場所に下りてきたそうです。

平安の昔から横山を守ってきたお不動さんですが、大正15（1926）年3月5日、境内にあった民家のかまどから出火し、焼失寸前の危機にあいました。「本堂が全焼してしまうほどの大火事だったが、そのときに唯一、助かったのが木造不動明王御本尊だった」と言います。

像高2・75メートル、重量約300キロもある仏像でしたが、なんとしても助けたいという地域住民によって助け出されたのでした。驚くのは、御本尊をたった7人で助け出したことです。しかもその中に、横山小の6年生の男の子が1人入っていたことです。

「当時は着物を着ていたので、その帯を取ってみんなでつなぎ合わせて仏像の首にかけ、横倒しにして火が迫ってくる中をみんなで転がすようにして一生懸命助け出した」と橘さんは話してくれました。昼間のことで、人は周りにあまりいなかったのですが、お不動さんを大切にしている思いから、7人は「なんとかしなければ」という一心で力を合わせて救ったんだろうと思いました。

◇　◇

現在も、そのときの焼け跡が仏像の左足に残っています。それ以外は昔と変わらない姿で、わたしたちを守り続けています。ふるさと横山を850年間も守ってくれているお不動さんを、これからもわたしたちの手で守っていきたいという思いを強く持ちました。

文・佐々木久恵、大森苑美、佐佐木寅月、佐々木雅人（6年）

言い隊

■ みんな笑顔で遊ぼう ■

わたしの今年度の目標は、友達とより良い関係をつくることです。

このごろわたしは、仲の良い友達だけではなく、みんなと遊ぶことを心がけています。みんなと遊ぶと、みんなの良いところが分かります。「あ、この人ともこれからもっと遊んでみよう」と思えます。仲良しの友達だけで遊んでいると分からないことが見えてくるのです。周りにはたくさんの友達がいるんだから、みんなの良さを見つけていきたいです。

みんなが一緒に笑顔で遊べる関係、それがわたしの理想です。皆さんも、いろんな人と遊んでみませんか。自分とはちがう良いところが見えてきますよ。

（6年・阿部美都）

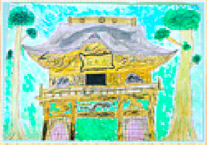
■ 仲良く「縦割り給食」■

横山小には「ランチルーム」があります。学期に1カ月ほど、縦割り班で全校一緒に給食を食べます。分量を考えて分けなければならない難しい仕事は高学年が行い、低学年にはできる仕事を担当してもらいます。新学期になって5月末が1回目。1年生は初めてで緊張しましたが、高学年がリードして、みんなで楽しくおいしい給食の時間を過ごしました。

ぼくはこの縦割り給食を通して、低学年のことを考えながら仕事を分担したり、困っているときに助けたりしました。全校で楽しく給食が食べられ、別の学年の人とも仲良くなれる縦割り給食があることで、ますます全校が仲良くなります。

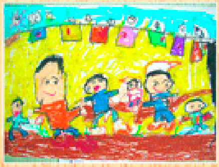
（6年・佐々木涼）

うきうきキャンバス



お不動尊の山門
6年・大森諒介

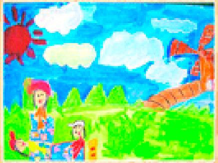
不思議な天空の鳥
5年・佐藤匠



がんばったつなひき
1年・阿部修也

白鳥の親子が住む世界
4年・西城茜

もくもくカブトムシ
3年・佐々木龍一



楽しかった遠足
2年・西條色葉

教え隊

火伏せの獅子舞

火伏せの獅子舞の練習で、6年生全員が集合（7月7日）

運動会・学芸会で披露

篠笛、小太鼓、大太鼓の音楽にのせて踊る獅子など。これが横山伝統の「火伏せの獅子舞」です。今から60年ほど前、横山の3分の1が燃えたという大火事がありました。もう二度と火事は起こさないようにしよう、という願いをこめて、地域の人々と共にこの獅子舞を伝承しています。

現在、4年生以上の児童でこの獅子舞を運動会や学芸会で披露しています。先輩から引き継いだ伝統をさらに後輩たちに伝えます。

文・伊藤樹音、浅野志保、菅原佳奈、菊地楓（6年）

編集後記

「どきどき小学生・横山小版」を作成するために、横山不動尊に取材に行きました。小さいころから知っている所ですが、あらためて住職さんにお話を伺うことで、また新しい発見がありました。ますますお不動尊が身近なものに感じられ、横山が好きになりました。

今回この新聞を作るに当たって、ご指導いただいた皆さん、大変ありがとうございました。この記事を読んでくださった読者の方々に、感謝します。

＜編集委員＞安倍拓海、佐藤竜平、菅原玲威、菅原佳奈、大森諒介、佐々木久恵、佐々木雅人、佐々木涼、大森苑美、浅野志保、堀田晶子、伊藤樹音、阿部美都、佐佐木寅月、菊地楓、佐々木広（6年）

題字デザイン　堀田晶子、佐々木広（6年）

＜指導教諭＞高橋朋美